

## スカシタマミジンコ培養方法説明書（一例）

### ● 1. 最初に準備するもの（1 L ガラス容器による静置培養）

- ① 1 L 程度の培養器（フタ付きのガラス容器が便利です）
- ② 水道水 1 L 程度
- ③ 市販の塩素中和用ハイポ（1 粒）
- ④ スカシタマミジンコ培養体（キット添付品）
- ⑤ GGSP Green Water（キット添付品）

※培養温度 18～30℃

※エアレーション培養に移行する場合でも、バックアップ培養として静置培養を続けることをお勧めします。

### ● 2. セットの方法

#### ① 容器・器具の洗浄

使用する容器類をキッチンハイターに漬け置きするなどして綺麗に洗浄します。塩素が残らないようによく濯いでください。

#### ② 飼育水（培養液）

塩素抜き水道水を必要量用意します。タマミジンコは塩素を嫌います。飼育水は水道水を充分天日にさらしたのものや、魚類飼育に使用している水をコーヒーフィルターでろ過したものが理想です。

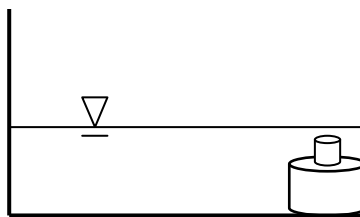
#### ③ セット（1 L ガラス容器による静置培養の場合）

容器の半分に飼育水を入れ、これにスカシタマミジンコ培養体全量と GGSP Green Water 10 mL を投入します。容器は明るい場所に置いてください。残りの GGSP Green Water は冷蔵庫で保存してください。

#### ④ セット（10L ガラス水槽とエアレーションの場合：詳細は説明しません：自分で工夫してください）

小型のフィルターを水槽の一端にセットします。飼育水を水槽の半分程度入れます。フィルターからのエアは単純に上に抜けるようにします。流れが全体に発生ないようにします。

水温が低い場合はオートヒーターをセットしてください。



準備品の例 静置培養と通気培養（左）と 10L ガラス水槽のセット例（中）（右）

### ● 3. 培養方法（1 L ガラス容器による静置培養の場合）

#### ① 給餌

GGSP Green Water はやがて沈みます。スカシタマミジンコは沈んだ GGSP がなくなるまで底を突いて食べ続けます。GGSP がなくなる頃に追加の給餌をします。GGSP Green Water の場合、過剰に与えるとミジンコが増えすぎますのでご注意ください。

増殖が進むと飼育水は短時間で透明になります。この時点で通常は 1 日 2 回、1 回当たり 1～10 mL 程度の GGSP Green Water を与えます。給餌量は 12 時間で透明になる量が基本です。

エサはドライイースト、粉末クロレラ、その他が使用できます。但しこれらのエサでは培養は安定しません。また、水質が悪化しますので十分なメンテナンスが必要です。

#### ② 間引き

活性の高いミジンコを維持したい時期は使用の有無にかかわらず、毎日 20% 程度のミジンコを飼育水ごと間引きし、新しい水を補給します。

#### ③ 水換え

エサの種類や通気の有無によって水換えのタイミングは大きく異なります。通常は 3 日～7 日に 1 回、底部の残渣と共に 1/3～1/2 の水を交換します。交換する水は水道水でも構いません。できれば塩素抜きをしてください。

成体が水槽の 1 箇所にかたまって堆積するようになったら危険信号です。飼育水とミジンコを上澄みごと回収し、水槽ごと洗浄、再セットしてください。回収したミジンコと飼育水は引き続き使用できます。

### ● 4. 共通の注意点とポイント

#### 【1】温度

培養は 18℃～30℃で行います。

#### 【2】通気

タマミジンコの仲間は強い流れ、特にエアによる対流を嫌います。エアストーン等の設置には工夫が必要です。GGSP Green Water などの生餌を与える場合は光を照射すれば通気なしでも培養できます。

#### 【3】光

光は必ずしも必要ではありませんが、光を照射しないと培養の状態がわかりません。できれば 10W 程度の蛍光灯による連続照射が理想です。光は透過光（反対側から照らす）としてください。

#### 【4】餌料

餌料は緑藻の生餌が基本です。12 時間で透明になる程度の給餌が必要です。酵母やバクテリアでは酸素を消費します。通気などの工夫が必要になります。